

令和4年度 第1回
登録建築大工基幹技能者認定試験問題 (60分)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分
2. 問題数 25題(四者択一方式)

注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子は開けないでください。
- ② 受験番号と氏名は、問題用紙および、解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。受験番号は、机上の3ケタの番号を記入ください。
- ③ 本冊子は表紙を含め10頁です。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などあった場合は、黙って手を上げて申し出てください。
- ④ 本冊子の持ち帰りは禁止です。解答用紙と共に提出してください。
- ⑤ 解答の方法は次のとおりです。
 - イ. 正解と思うものを(1～4)の中から1つだけ選び、解答用紙の解答欄にその番号または記号を記入してください。
 - ロ. 解答を訂正する場合は、訂正する解答を、消しゴムできれいに消すか二重線で取り消した後、新しい解答を記入してください。
- ⑥ 電子式卓上計算機、携帯電話、情報端末機、その他これと同様の機能を有するものは使用してはいけません。
- ⑦ 大工テキスト、共通テキスト、その他ノート類を持ち込むことはできません。
- ⑧ 試験開始後30分までの遅刻は受験することができます。ただし、解答できる時間はこの試験終了予定時刻までです。
- ⑨ 試験中質問があるときは、黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方に関する質問にはお答えできません。
- ⑩ 試験終了予定時刻前に解答が出来上がった場合は黙って手を上げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始から30分以内の場合は退出できないので、静かに着席しててください。
- ⑪ 係員の試験開始の合図で始めてください。

(一社)JBN・全国工務店協会

全国建設労働組合総連合

(一社)全国住宅産業地域活性化協議会

(一社)日本ツーバイフォー建築協会

(一社)日本木造住宅産業協会

(一社)日本ログハウス協会

(一社)プレハブ建築協会

2022年10月27～28日

2022年10月27～28日

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題1. 登録基幹技能者の役割として、最も**不適當**なものはどれか。

1. 現場の作業を効率的に行うための技術者の適切な配置、作業方法、作業手等の構成
2. 前工程・後工程に配慮した他の職長との連絡・調整を図る
3. 現場の実績と状況よりも、コストを重視した施工が最優先される。
4. 現場の状況に応じた施工方法の提案や調整も役割である。

問題2. 登録基幹技能者に求められる能力として、最も**不適當**なものはどれか。

1. 一般の技能者を指揮・監督できるだけの十分な作業能力を有する。
2. 監督に対して現場の状況に応じた適切な施工方法や作業手順について提案調整ができる。
3. 現場をまとめ、他の職長への指導、教育を計画的に実施する。
4. 元請の技術者の示す施工計画等から、現場に適した技術面からの施工方法作業手順、工夫の提案能力を有する。

問題3. 建設業の働き方改革に関する記述について最も**不適當**なものはどれか。

1. 労働基準法の改正が行なわれ、従業員に対し残業時間の上限規制が決められた。
2. 労使が合意する場合には、残業時間の上限を月に100時間（年間上限720時間）まで仕事することが認められる。
3. 年10日以上の有給休暇が付与される者を対象として、5日以上の取得が義務付けられている。
4. 同一企業内において、正社員と非正規社員の間で、基本給や賞与などあらゆる待遇について不合理な待遇差を設けることを認められた。

2022年10月27～28日

問題4. 建設業法等の改正法「新・担い手三法」の改正内容に関して最も**不適当**なものはどれか。

1. 著しく短い工期の禁止
2. 下請代金の労務費部分の現金支払
3. 監理技術者の専任義務の強化
4. 主任技術者の配置義務の合理化

問題5. 次の各種契約について、最も**不適当**なものはどれか。

1. 「雇用契約」とは、労働者が雇用者の指揮・命令に従って仕事をし、雇用者がその提供された労務に対して報酬を支払う約束することにより成立する。
2. 「請負契約」とは、仕事を請け負った労働者が提供する労務に対して、仕事の完成時に報酬を支払うことを約束する契約である。
3. 「労働者派遣契約」とは、自己が雇用する労働者との雇用関係を維持したままの労働者を、他者の指揮命令下において従事させる契約である。
4. 「労働者派遣契約」では、建設業務に対する労働者派遣は認められていない。

問題6. 登録基幹技能者に求められる、コンプライアンスや倫理に関する記述で、最も**適当**なものはどれか。

1. 元請会社の技術者から指示された事は、技能者の過去の経験や考えと違っていても、指示されたとおり施工すべきである。
2. 企業コンプライアンスはあくまでも「法令遵守」であり、社内独自の規則やマニュアル等は企業コンプライアンスに該当しない。
3. コンプライアンスとは法令に従って事業または仕事を行う事である。
4. 契約工期を守るためには、全ての材料が新品でなくても、間に合わなければ古い材料を使い施工しても機能を満足していれば、コンプライアンスに反する行為にはならない。

2022年10月27～28日

問題7. CCUSの建築大工能力評価基準の各レベルになる為の必要資格及び経験について、最も**不適當**なものはどれか。

1. レベル2になる為には丸のこ等取扱作業安全衛生教育が必要である
2. レベル3になる為には就業日数が7年以上必要である
3. レベル3になる為には職長としての就業日数が1年以上必要である
4. レベル4になる為には職長としての就業日数が3年以上必要である

問題8. OJT教育に関し、最も**不適當**なものはどれか。

1. OJTは上司の仕事そのものである。
2. OJTでは上司のペースに合わせる。
3. OJTで、仕事のペースは落とさない。
4. OJTにおいて、外部との接触の機会を提供する。

問題9. 部下の能力等を向上させる基本的な指導方法の順序として、最も**適當**なものは次のうちどれか。

1. 経験させる → 教える → 見習わせる → 自己啓発を行わせる
2. 自己啓発を促す → 経験させる → 教える → 見習わせる
3. 教える → 経験させる → 再度教える → 自己啓発を行わせる
4. 教える → 見習わせる → 経験させる → 自己啓発を行わせる

問題10. 建設業法で規定されている契約に関する次の記述のうち最も**不適當**なものはどれか。

1. 契約は下請け工事の着工前に書面により行うことが必要。
2. 契約書面には建設業法で定める一定の事項を記載することが必要。
3. 注文書・請書による契約は一定の要件を満たすことが必要。
4. 契約は電子契約によることはできない。

2022年10月27～28日

問題 11. 特別教育の対象となる、足場の組立て等の作業にあたる業務として最も**適当**なものはどれか。

1. 脚立、移動はしご等を単体で使用する場合
2. 層全体の手すりを外す場合
3. 堅固な床で足場の材料の運搬や整理の補助作業を行う場合
4. ローリングタワーを移動させる場合

問題 12. 安全衛生に関する記述として、最も**不適当**なものはどれか。

1. 新たに職務につくことになった職長は、安全衛生教育を受けなければならない。
2. 職長とは、建設業等政令で定める業種において作業中の労働者を直接指揮又は監督する者のことで、職長教育の受講にあたっては、厳しい年齢制限と必要な資格が定められているため、職長教育を受けようとしても受講できない者がいる。
3. 安全衛生教育は大別して、安衛法に定められている教育（法定教育）とそれ以外の教育（法定外教育）に分けられる。
4. 安全衛生教育の法定教育とは、「新規雇用者に対する教育」、「作業内容変更時における教育」、「危険有害業務従事者に対する教育」、「職長に対する教育」、「安全管理者に対する能力向上教育」、「危険・有害業務従事者に対する教育」、「労働災害の再発を防止する講習」、及び「その他行政指導による教育」である。

問題 13. 工程・原価・品質に関する次の記述のうち最も**不適当**なものはどれか。

1. 工程と原価の関係は、施工速度を上げると単位時間当たりの出来高が増え原価は安くなるが、さらに施工速度を上げると突貫作業となり、逆に原価は高くなる。
2. 原価と品質の関係は、一般的に品質を良くすると原価は高くなるが、品質を下げると原価は下がる。
3. 品質と工程の関係は、品質を良くすると一般に時間がかかり施工速度は遅くなるが、品質を下げると施工速度は上がる。
4. 品質の良いものを作る場合に、施工速度を無理にあげると、原価は一般的に安くなる。

2022年10月27～28日

問題 14. 作業手順書に基づき実践した後の効果に関する記述として、その内容が最も**不適當**なものはどれか。

1. 作業方法を理解するためには時間がかかる。
2. 作業指示を適切に行うことができる。
3. 作業のムリ・ムラ・ムダが省ける。
4. 作業員の配置がやりやすくなる。

問題 15. 建設工事の工程管理に関する記述で、最も**不適當**なものはどれか。

1. ネットワーク工程表の特徴として、作業手順、作業の相互関係がわかるため、正しく運用することは時間のムダやムラの防止につながる。
2. バーチャート工程表は、縦軸に作業、横軸に日数をバー（棒）の長さで表した工程表である。
3. 工程計画の立案にあたり、対象とする作業について、作業可能日数、1日当たりの平均施工量、施工速度を算定する。
4. 基本工程表（全体工程表）の立案に当たっては、最初に全ての工種別の施工組織体系を把握して計画する。

問題 16. 工程計画に関する次の記述のうち、最も**不適當**なものはどれか。

1. 工程計画の直接の目的は工期内の完成だが、工事の品質は各工程において作りこまれ、工事の原価も各工程において生じる。したがって、工程計画の適否が工事の良否を決定するといっても過言ではない。
2. 工程計画の基本的なフローは、次のとおりである。①各工程（各部分工事）の施工順序の決定 ②各工程（各部分工事）に必要な作業可能日数、1日当たりの平均施工量など作業日程の策定 ③機械・設備の規模・台数等の決定 ④実施工程表の作成
3. 工程計画を作成する際に所要作業日数を算定する必要があるが、所要作業日数とは目的の作業が完了するまでに必要な最短日数である。
4. 実際に作業ができるかどうかは、天候や日照時間、作業現場の位置・状況（近隣住民への配慮）に影響されるが、不明確な要素が多いので作業可能日数の算定に当たっては考慮しない。

2022年10月27～28日

問題 17. 資材管理における受入検査の留意点に関して、最も**不適當**なものはどれか。

1. 発注内容と納品書等の内容が一致しているか確認する。
2. 納品書の内容と搬入された資材の仕様の違いや数量の不足がないか確認する。
3. 発送予定の資材を発送元の工場内にて破損や変質等の異常がないか確認する。
4. 付属品や予備品がそろっているか確認する。

問題 18. 建設工事の原価管理に関する記述で、最も**不適當**なものはどれか。

1. 実行予算を枠組みとして発注し、資機材や労務を管理する。
2. 実行予算の作成では、現場条件に合わせた施工計画を作成することが重要である。
3. 実行予算の作成に当たっては、複数案を検討しても、コストの削減にはならない。
4. 実行予算と実績を比較しながら、予算内に収めるように施工管理を行う。

問題 19. 品質管理に関する次の記述のうち、最も**不適當**なものはどれか。

1. 品質管理とは設計図書及び仕様書に示された品質基準を十分満足するような工事目的物を最も経済的につくるための管理である。
2. 品質要求事項の高い発注者と設計・監理者によりコストに関係なく品質は実現できる。
3. 顧客の要求事項を満たす程度が高ければ品質は高く、逆であれば品質は低くなる。
4. 品質を構成する特性を「品質特性」と呼び、それを具体的な数字で表示したものを「品質特性値」と呼ぶ。

2022年10月27～28日

問題 20. 建築物の品質に係る規格等に関する次の記述のうち、最も**不適當**なもの
はどれか。

1. 建築材料の品質は、建築基準法第37条において「建築物の基礎、主要構造部に使用する木材、鋼材、コンクリートその他の建築材料は、その品質がJIS又はJASに適合するものであること」と定められている。
2. 日本産業規格（旧日本工業規格）は産業標準化法に基づき、経済産業大臣が制定する日本の国家標準の一つで、JASまたはJAS規格と呼ばれている。
3. 建築物（住宅）で使われるJAS規格の林産物は、合板、フローリング等の12種類から構成される。
4. BL部品（優良住宅部品）は、一般社団法人ベターリビングが優れた住宅部品を、人々の住生活水準の向上と消費者の保護を目的として認定したものの。

問題 21. 熱中症の発生状況とその予防対策に係る次の記述のうち、最も**不適當**
なものはどれか。

1. 服装は、熱を吸収し、保熱しやすい服装は避け、通気性の良い、吸湿性・速乾性のある服装を着用する。
2. 加齢や疾患によって脱水症状であっても自覚症状に乏しい場合があることに留意する。なお、塩分等の摂取が制限される作業員については、主治医、産業医等に相談する。
3. 建築工事において死亡災害かもっとも多い作業項目は熱中症である。
4. 涼しい休憩場所の確保を検討し、休憩場所には氷、冷たいおしぼり等の体を冷やすことができる物品や、飲料水、スポーツドリンクの備付を行う。

問題 22. 建設工事の安全管理に関する記述で、最も**不適當**なものはどれか。

1. 3 m以上の高所から物体を投下するときは、投下設備を設け監視人を置く。
2. 高さ2 m以上の作業場所には、作業床を設ける。
3. 単管足場での建地・建柱間の積載荷重は、400 kg以下である。
4. 木造住宅の建方作業では、高さが5 m以上の場合でも、フルハーネス型の落下防止器具を用いる必要はない。

2022年10月27～28日

問題 23. 安全指示をうまく伝えるためのポイントとして、次の記述で最も**不適当**なものはどれか。

1. 指示を出す現場責任者は、自分がしっかりやらないとだめだという、責任者としての強い自覚が必要である。
2. 指示を出すためには、日々刻々と変わる現場の状況を常に把握しておくことが必要である。
3. 指示内容は細かな作業理由は伝えず、重点となる作業内容のみを具体的に伝える必要がある。
4. 実際の作業場所で指示をし、指示の後には確認を行うことが必要である。

問題 24. 墜落防止対策について次の記述のうち、最も**不適当**なものはどれか。

1. 脚立を使用する際は、天板に乗らない等の正しい使い方が求められている。
2. 高さが2m以上のところで作業する時は、作業床を設置する。作業床は幅40cm以上、床材の隙間は3cm以下とする。
3. はしごは、しっかりと固定をし、はしごの上端を床から60cm以上突出させる。
4. ローリングタワーに作業員を乗せたまま移動させる場合は、作業床に高さ90センチ以上の手すりを設置する。

問題 25. 木造建築の工法に関する次の記述のうち、最も**不適当**なものはどれか。

1. ツーバイフォー工法（枠組壁工法）において、一般的に断面が2インチ×4インチ以外の部材も使用される。
2. プレカット方式とは、ツーバイフォー工法特有の工場加工方式である。
3. ツーバイフォー工法は、一種の壁構造であるので壁の配置と壁量の確保に留意して平面計画を行う。
4. 木造軸組工法は、柱・梁を主要構造としたものであるが、筋違等による水平力に対する補強も必要である。